

川崎市教育委員会賞受賞作品

「将来はこの街のお医者さん」

金程小学校 5年生 高橋 朋花

私が生まれたのは、川崎市麻生区です。緑いっぱいこの街が大好きです。川崎市は、たてに長いので、川崎区と麻生区では、景色が全然ちがいます。市内めぐりで川崎駅まで行った時は、同じ市だとは思えないくらい、色々ちがって、とてもおどろきました。車も人も多くて、高いビルがたくさんあって、オシャレなお店もいっぱいあって、とてもおもしろそうでした。私の家や学校の周りには、そこまで高いビルなんてありません。コンビニも駅前ぐらいにしかありません。でも、春にはウグイスが鳴いて、たけの子やつくしがとれます。夏には、カブトムシがいたり、ビワやウメの実がとれて、秋には鈴虫が鳴いて、柿がとれて、紅葉も楽しめます。冬には、遠くに真っ白な富士山が見えて、雪がふった時には、家族みんなで大きなかまくらを作りました。

小さいころから私は、毎日この街の近くのいろいろな所を散歩しました。一才ちがいの弟がいます。だから私は、いつもベビーカーに乗れず、弟がうらやましかったのを覚えています。でもその分、いつもおかあさんと手をつないで歩くことができました。そして、色々な花を見つけたり、木の実を拾ったり、虫を見つけたりして歩きました。花の名前が分からない時は、後でおばあちゃんに聞いたり、本で調べたりしました。なので、今は色々な花の名前を覚えています。そして最近、かわいい花やめずらしい花を見つけると、一つだけ持ち帰って、押し花にして、押し花帳を作って楽しんでます。なかなか押し花にしにくい、立体的な花もあります。だから、かんたんにはできないのですが、どんどん色々な花を集めていきたいです。

私の将来の夢は、お医者さんになることです。できれば、小児科かひふ科の先生になれたらいいなと思います。私は、小さいころから多汗症で、手のひらと足のうらにいつも汗をかいていて、水ぶくれができてかゆかったりして、とてもイヤでした。原因が分からないので、治しようがないらしく、一年中いつも手には包帯を巻いたり、手袋をはめたりしています。足には、ねる時まで五本指のくつ下をはいて、出た汗を吸いとることしかできないのです。いつも手袋をしていると、みんなに、「手、けがしたの？」と、聞かれますが、いちいち説明するのが面倒でした。でも、いいこともあります。小さい時から、お母さんやおばあちゃんが色々な絵のついたかわいい五本指のくつ下を見つけてきてくれるので、みんなが、「かわいい!」と、言ってくれます。ちょっと恥ずかしいけど、うれしかったです。けれどやっぱり、みんなみたいに暑い時は、はだしで歩きたいし、ねる時もくつ下をはくのは、イヤです。だから私がお医者さんになったら、こんな思いをする人がいなくなるように研究して、治してあげたいと思います。だから今は、色々な本を読んだり、勉強も

しっかりしようと思います。そして、お医者さんになったら、私の好きな自然あふれるこの街で病院を開きたいと思っています。だからそれまで、この自然が残っていてほしいです。山が少しずつ減って、家やマンションになっていくのを見ると、少し悲しくなります。便利できれいになるのはいいけど、やっぱり自然を残してほしいと思います。そしてもし、将来、自分に子供ができたら、私がお母さんと散歩したように、子供といろんな所を散歩して、自然と目いっぱいふれあってほしいです。そして子供には、こんな汗の病気がなくて、いつもはだしで歩けるようになってほしいです。